

東京地下鉄株式会社第41回社債(一般担保付)(サステナビリティボンド) レポート(2021年4月末時点)

- 2020年6月12日発行の東京地下鉄株式会社第41回社債(一般担保付)(サステナビリティボンド)については、2021年4月末時点で、調達資金(発行諸費用を控除した後の手取金)の全額を対象プロジェクトの一部に充当しました。(下表①)
- 本社債の資金充当による環境・社会効果は以下のとおりです。(下表②)

対象プロジェクト概要		① 調達資金の充当状況(※1)	② インパクト・レポート (下線部:本社債により資金充当した設備またはその効果)
(ア) 新型車両導入 	丸ノ内線2000系車両の導入 	(新規)4,858百万円 (リファイナンス)4,000百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 編成数: <u>16 編成</u> 〈参考〉2021年3月末時点の2000系車両導入数:32編成 2023年度までに全52編成導入予定 ● CO₂排出削減量: <u>2,759 t-CO₂/年</u>(※2)
(イ) 駅ホームの 安全性向上 	ホームドアの整備 	(リファイナンス)1,000百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置駅数: <u>4 駅</u> 〈参考〉2021年3月末時点のホームドア設置駅数:147駅(整備率82%) 2025年度までに全180駅に整備予定
(ウ) 太陽光発電 	地上駅における太陽光発電 システムの設置 	(新規)100百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間発電量: <u>157,797 kWh/年</u>(※3) 〈参考〉2020年度の太陽光発電システム総発電量:1,096,024 kWh/年(※4) ● CO₂排出削減量: <u>69.7 t-CO₂/年</u>(※5)
合計		(新規)4,958百万円 (リファイナンス)5,000百万円 (発行諸費用)42百万円 (計)10,000百万円	—

(※1) (新規)発行日である2020年6月12日以降の投資に充当した金額 (リファイナンス)2019年度の投資に遡って充当した金額 (発行諸費用)本社債発行に伴って要した手数料

(※2) 丸ノ内線02系車両との比較。車両原単位(車両1両が1km走行するための電力消費量)や2020年度の年間走行キロ等を基にした推計値。CO₂排出係数は、0.000442t-CO₂/kWh(2020年度電気事業者別排出係数)を使用。

(※3) 2021年3月稼働開始のため、平均日射量等を基にした計画値。

(※4) 地上駅(太陽光発電システム稼働中の計10駅)の総発電量。なお、一部の駅において計測装置不具合のため、推計値を使用。

(※5) 計画値を基にした推計値。CO₂排出係数は、0.000442t-CO₂/kWh(2020年度電気事業者別排出係数)を使用。